

LUNA の利用実績とお知らせ	1
LUNA 活用事例紹介	2
講習会実施報告	3
2012年度新任者教員研修会、FD ワークショップ	5
講演会告知、お知らせ	6

＝第3号発行にあたって＝

本学の Learning Management System である LUNA (ルナ) は、教育力向上 (FD) と情報通信技術 (ICT) の連携を担うものとして全学的に定着しつつあります。2010年9月の稼動以来、利用教員数、利用科目数ともに順調に増加を続けている状況です。これをさらに推進し、より多くの教員および学生が LMS の効果を体感できるような環境をつくっていくため、このたびニュースレター紙上で LUNA の活用事例を紹介することにいたしました。特集した3件の具体例を通じて、導入検討中の皆さまや、限定的に使用されている皆さまに、LUNA のもつさまざまな利点を少しでもお示しすることができれば幸いです。

なお、この活用事例の中に、LMS をゼミ学生の事前学習に役立っているという報告が見えます。一般的に減少傾向にある自己学習時間をどのように確保するかという問題は、大学生の生活実態調査と連動するものでもあります。高等教育推進センターでは、今年10月にカレッジコミュニティ調査を実施しました。その結果を受けて、今後は EM (Enroll Management) や IR (Institutional Research) といった観点から、総合的な学生支援策に取り組んでいく予定です。そのための講演会や研修会などを企画し、このニュースレター等で情報発信に努める所存ですので、今後とも当センターの活動にご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

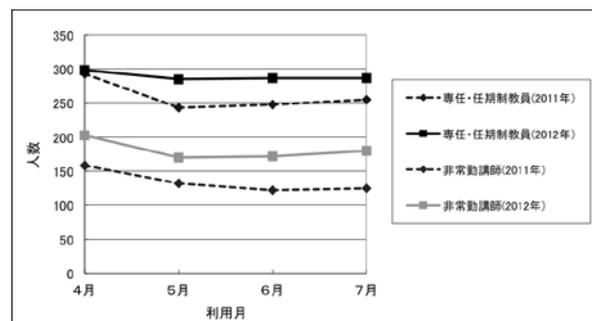
高等教育推進センター副長 (高等教育推進センターニュースレター編集長) 北村 昌幸



◆ LUNA の利用実績は昨年度同期を上回りました

2012年4月～8月の利用実績の集計を行いました。なお、LUNA の利用実績の数値については、単に LUNA へログインした数ではなく、「お知らせ・メール・テスト・教材・掲示板」などアクティブに利用した率で算出しています。

専任教員 (任期制を含む) の月毎の利用者数の合計は 1,247 名 (前年同期比 110.1% 増)、非常勤講師も含めた全体の教員数では 2,004 名 (前年同期比 118.6% 増) の先生に利用いただいています。また、LUNA を利用した科目数では、2011年度は 6,016 科目、2012年度は 7月時点で 4,226 科目と順調に推移しています。



◆ LUNA サービスパック (S P) 8の適用について

2012年8月2日よりサービスパック (S P) 8に更新しました。サービスパック (S P) とは、修正プログラムをまとめて更新するもので、今回は、昨年8月に実施した S P 6更新以後に発生していた 27 件の不具合を解消するために修正プログラムを適用いたしました。今後も利便性の向上に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、LUNA を利用した際、不具合や動作で気になるところがありましたら、LUNA サポート (LUNA-support@ml.kwansei.ac.jp もしくは 内線 31336) までお問い合わせください。

◆ LUNA サポートでは以下のサービスを提供しておりますのでご利用下さい

- ◎電話・メールサポート … 電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします
- ◎出張サポート … 研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数いずれでも対応します
- ◎来室サポート … 高等教育推進センター事務室へ来室いただければ、その場でサポートします
- ◎学生向け説明会 … 先生に代わって LUNA の操作方法のオリエンテーションをおこないます
- ◎ハンドブック … 教員向け・学生向けがそれぞれあります
- ◎LUNA サポート … LUNA 内に詳細なマニュアルを掲示しております

おかげさまで、これまで 1,500 件以上のお問い合わせをいただいております！ぜひご利用ください！！

LUNA サポートでは、現在本学の LMS システムである「LUNA」に活用事例を掲載しており、今号と次号でその一部を抜粋してご紹介します。詳細は、「LUNA サポート」タブ内にある「LUNA 活用事例」に記載していますので、ご参照ください。

◆人間福祉学部 生田正幸先生のご活用例◆

◇LUNA を使っている科目

- ⇒【クラス規模】小教室及びPC教室他
- 【授業形態】演習系及び授業系
- 【配布物】必要に応じて

◇どのようにしてLUNAを知りましたか？

⇒開学がLUNAを導入する前に、同様のシステムを採用していた他大学で知った

◇LUNAを使用するようになったきっかけは何ですか？

⇒学生への連絡をより効率的に行いたい。インターンシップ中の動きを共有したい



◆社会起業学科でコミュニティを作成したり、教職員・学生へ連絡をしたりしています

- ・学年ごとに1つのコミュニティを作成
 - ★学内外のイベントやゼミのスケジュールなどの連絡を行う
- ・複数に分かれているインターンシップ科目を1つのコミュニティにまとめる
 - ★共通の連絡や情報共有、インターンシップ中の動きをブログで共有
- ・学科内の教員と助手でコミュニティを作成
 - ★会議の議事録を共有する
- ・一部の学生にメールで連絡をおこなう（成績管理のメール通知機能の利用）
 - ★ゼミの特定グループや授業を休んだ学生など、一部のメンバーにメールを通知したい時などに利用

◆社会学部 大岡栄美先生のご活用例◆

◇LUNA を使っている科目

⇒主に研究演習、その他ではソーシャルキャピタル論、インターメディアイト演習でも利用

◇LUNAを使用するようになったきっかけは何ですか？

⇒以前からMドライブや授業連絡ボードでレジュメ掲載などしていた
⇒学内システムのLUNA移行にともない、講習を受け利用開始した



◆掲示板で学生同士がコメントしあうことでよい刺激を与えられています

【授業での利用状況】

<研究演習>

●教材配布、掲示板でメンバー間のコミュニケーションの促進

- ★従来当日配布していた資料をLUNA上に掲載し、学生がダウンロードして活用
- ★「掲示板」は、研究演習での、ゼミメンバー間のコミュニケーション促進ツールとして利用。特に前期、対面して意見交換がしにくい時期、授業中のグループ報告に対し、授業後各学生が報告に対するコメントを掲示板に投稿、ゼミ生間の相互フィードバックの場を提供している

●掲示板で発表原稿の事前公表、学生グループ間のファイル共有場所として利用

- ★グループ調査や卒業論文報告では、ゼミ学生に事前にLUNAに報告原稿を掲載してもらっている
- 他の学生は掲示された報告原稿を事前にダウンロードし、読んだうえで、コメントを考えてゼミに参加するグループでひとつの報告書を作成する場合は、お互いのファイルの共有場所としても利用している

◆日本語教育センター 森本郁代先生、薄井良子先生のご活用例◆

◇LUNA を使っている科目

⇒【クラス規模】小教室（日本語の授業を複数クラスご担当）

【授業形態】言語系

【配布物】基本的には全て紙で配布

◇どのようにしてLUNAを知りましたか？

⇒授業連絡ボードを利用しており、LUNAへ移行すると学内から連絡があった

◇LUNAを使用するようになったきっかけは何ですか？

⇒課題レポートのフィードバックが早く行えそうで、便利だと思った



◆お知らせ機能や課題レポートなどを使用しています

- LUNAのお知らせ機能を利用して、課題レポートや授業へ持参する物などの連絡を行っている

★連絡事項はクラスで直接学生に伝えた上で、クラスによってはお知らせ機能も使い、より周知の徹底を図っている

- 課題レポートを作成し、学生の提出状況をチェックしている

★学生の提出日時や作業状況が一目瞭然

講習会実施報告

2012年度 LUNA「教授者－学習者支援システム」利用講習会（入門編）

＜概要＞

内 容：一般的な利用の流れ、教材配布・お知らせ通知、教材・課題・テストフォルダ作成等の基本機能の紹介

参加者：教員25名（その内、新任教員14名）

開催日時：4月14日（土）9：00～11：00（上ヶ原）※初任者教員研修と同時開催

4月19日（木）13：30～15：00（上ヶ原）

4月26日（木）13：30～15：00（聖 和）

LUNAのさらなる利用促進や、日頃、Eメールや電話等を通じてLUNAサポートへ多く寄せられる基本的な機能に関する操作方法への理解を深めてもらうことを目的とした利用講習会を実施しました。

開催は各キャンパスでの開催だけではなく、教員の初任者研修プログラム内でも行いました。また、講習会後には参加者からは使用されようとしている課題に関するフォルダ作成の仕方について質問されるなど今後の利用に向けての個別の質疑応答もありました。

2012年度秋学期 教育研究システム PC 導入ソフトウェア活用講習会

センターで管轄している教育研究システムPCに導入されているソフトウェアの活用度を上げることを目的とした各種講習会を実施しました。

(1) 統計ソフト SPSS 基礎講習会

＜概要＞

内 容：データの入力、データの種類と尺度水準、分析法、仮説の検定、2群間の平均の比較、相関関係、単回帰分析等

開催日時：9月11日（火）10：00～16：00

講 師：辻野順子氏

募集開始より様々な所属学部・研究科・部課より定員の倍に近い多数の応募があり、当日の参加者も、留学生や社会人の学生も含み、文学部1名、法学部2名、経済学部1名、総合政策学部1名、言語コミュニケーション文化研究科3名、商学研究科1名、経営戦略研究科2名、商学部1名と多岐にわたり、全学的な統計に対する関心の高さが伺えました。

参加者はレポート、論文作成の際のデータ分析についての基本的知識を習得したい、SPSSを使った効果的なアンケートの作成方法について学びたいなど、SPSSを普段の学習や研究に利用するにあたっての基本的な知識や操作方法について学びにきており、そうした基礎知識や操作を得ることができて良かったという声が多く寄せられました。

(2)Adobe ソフトウェア講習会

2011年4月より総合大学としては、日本ではじめてとなる Adobe Creative Suite Master Collection の全学導入や、近年の Web 制作関連環境の変化から、より幅広い学生が関心を持つようになった Adobe 社のソフトウェアの中でも、プレゼンテーションや WEB 制作などの現場で特に使用されることの多い、以下のソフトウェアについての基本的な操作や、効果的な利用方法についての理解を深めてもらうことを目的とした講習会を実施しました。

講義では HP でのリンクの作成や写真、文字加工など用意された素材を元にした実習の他、機能ごとに実際の利用シーンにおける活用目的や留意点など実践の場を踏まえた説明もありました。

<概要>

- ・ Dreamweaver 初級 9月13日(木) 9:00～12:00 各回15名
- ・ Illustrator 初級…9月13日(木) 13:00～16:00
- ・ Illustrator 中級…9月14日(金) 9:00～12:00
- ・ Illustrator 上級…9月14日(金) 13:00～16:00
- ・ Photoshop 初級…9月19日(水) 9:00～12:00
- ・ Photoshop 中級…9月19日(水) 13:00～16:00

2012年度秋学期 マルチメディア開発室利用(映像制作)講習会

<概要>

内 容：映像制作の流れ(工程管理、企業における映像の重要性等)、マルチメディア開発室の利用について、ノンリニア編集(ビデオフォーマット、カット、クロマキ等)、スタジオ設備の概要と撮影テクニック

開催日時：9月7日(金)、12日(水) 12:00～16:00

講 師：水野五郎氏(映像テクニカル・プロデューサー)

映像制作をするための専用の機材を揃えたマルチメディア開発室(西宮上ヶ原キャンパス情報メディア棟B1階)を学生が利用する際の前提となっている、マルチメディア開発室を利用するための映像制作講習会を実施しました。

講義では、普段、神戸三田キャンパスでの授業で学生に映像制作の現場での体験を踏まえた講義を行うこともある水野氏から、近年、企業研修等の中での映像の重要性が高まっている現状や、大阪広告協会 CM コンテスト等の各種コンテストでの受賞歴があるなどネットやCMの動画作品で強い反面、映像制作についてはより力を入れていく必要がある関学生の現状などを経験も踏まえながら話され、また室内の機材を使用し実践的な実習も行いました。



講演会・ワークショップの開催

F Dに関する講演会—2012年度新任者教員研修会—

<概要>

開催日時：2012年4月14日(土) 11:00～12:00

講 演：寺地 孝之氏(教務部長)

村田 治氏(高等教育推進センター長)

新任者教員研修会において、寺地教務部長より「本学における教育の現状と課題」、村田高等教育推進センター長より「本学におけるFDの取り組み」について講演をいただきました。

寺地教務部長からは本学が取り組んでいる教務上の施策のうち5点を例に挙げ、これらの取組の内容やその課題について説明がありました。



(1) 教育課程の順次性・体系化について

- (2) シラバスについて
- (3) G P A ・成績評価について
- (4) 教育改善等の推進に関する基本方針
- (5) 授業調査や教育活性化資金などの取り組みの紹介

村田高等教育推進センター長からは、本学の授業調査の調査項目や調査方法を例に、本学におけるFD活動は、教員個人のFD活動を推進するだけでなく、マクロ分析を行った調査報告書などを通じて、提供部署単位でのFD活動や全学的なFDを重要視している旨の説明がありました。

講演終了後に実施したアンケートからも、「自分の担当する科目の位置づけがよくわかった」、「成績評価についてよく理解できた」、「授業調査に不安を感じていたが、評価されるだけでなく授業を改善していくためのものということがわかってよかった」等、前向きな意見が多く寄せられ、FDについて更なる意欲を感じさせる非常に有益な講演会でした。



FDワークショップ 大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」

<概要>

開催日：2012年9月10日（月）～11日（火）

講演：倉茂好匡氏（滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長）

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで倉茂好匡氏を講師に迎え、「大学教員のための『講義方法ブラッシュアップ』」のワークショップを開催しました。これは、専任教員・非常勤講師、及び大学で講義担当を目指す大学院生等を対象としたもので、発声、板書、立ち位置といった基本的なことから、授業構成、発問、教材研究といった内容に至るまで、実習を交えながら「講義方法のブラッシュアップ」を行うことを目的とするものです。

なお、このワークショップは「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」の一環として、同協議会の共催事業となっています。

参加者数は、初日が28名（関西学院大学から18名、関西地区FD連絡協議会加盟校から10名）、2日目が18名（関西学院大学から11名、関西地区FD連絡協議会加盟校から7名）でした。



9月10日（月）

講義「基本の基本」

講義「授業展開で陥りやすい罠」

ワークショップ「教材研究」

9月11日（火）

講義「発問法、アクティブラーニング法」

グループワーク「授業の完成」

授業発表会

なお、ワークショップ終了後にアンケートを実施したところ、関西地区FD連絡協議会加盟校からの参加者の回答も含めて、参考になったという主な意見は以下のとおりでした。

- 板書の仕方が大変参考になった。実際の講師・学生による授業の実演も大変参考になった。
- 講義の組み立て方や発問、教材研究など基本から学ぶことができた。また、発表することにより、体験から学びが深められた。
- 授業の準備において、教える知識よりも教材準備がとても大切さと分かりました。教材の準備で学生の理解度が大きく異なると思うので。
- 授業の組み立て方、ヤマの作り方など参考になりました。いろいろなグループの仕方を見られてよかったです。わかりやすくする工夫の大切さをあらためて、学びました。
- 学生を授業に参加させることの重要性。
- 教材研究の必要性や発問の仕方などとても実践的なことを学ぶことができました。また発表も自分のグループのみならず他の方々の発表をきいて参考になるものがたくさんありました。

お知らせ

第2回SD講演会の開催について

改革推進の担い手となる中堅・若手職員に向けて
—私が気づき 学んだこと 伝えたいこと—

日時：2012年11月15日(木) 17:00～19:00

(受付16:40～)

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館地下1階 図書館ホール

講師：横田 利久 氏(大学行政管理学会元会長、中央大学横浜山手改革推進室担当部長、日本私立大学連盟研修委員会委員、筑波大学 大学研究センター「大学マネジメント人材養成プログラム」外部評価委員他)



対象：大学職員の未来や人材育成に関心のある大学・短期大学の教職員

◆申し込み方法

HighEdu-FD@kwanse.ac.jp へ、件名を「第2回SD講演会参加申込」として、以下の内容を明記の上お申し込み下さい。(11月12日(月)締切)

①名前 ②所属 ③連絡先(E-mailアドレス)

※個人情報厳重に管理し、本講演会の運営管理のためにのみ利用いたします。

◆問い合わせ先

関西学院大学 高等教育推進センター (担当:永井・上田)
TEL: 0798-54-7420

第3回FD講演会の開催について

近日開催を予定しております。
詳細が決定次第、高等教育推進センターのホームページ等にてお知らせ致します。

カレッジ・コミュニティ調査の実施

本学では、1976年からカレッジ・コミュニティ調査(以下、CCA)を実施しており、学生の生活実態・目的意識・価値観などについて調査を行っています。この分析結果を本学の教育・環境改善に役立てることを目的としています。

調査は隔年で実施しており、今年度は17回目の実施年に該当します。

全学生から無作為抽出法で選ばれた4,472名を対象に10月を調査期間として実施しています。今回の調査報告書は、3月に全専任教員に配布を予定しています。

過去16回の調査報告書についても、「われわれの大学をよりよく理解するために—カレッジ・コミュニティ調査基本報告書—」として大学図書館に全て所蔵されています。

2012年度「学生による授業に関する調査」について

本学では、2005年度から統一的方式で、全学的に学生による「授業に関する調査」を実施しています。2012年度春学期の実施率(マークシート方式)は98.1%であり、多くの先生方のご協力によりほぼ全ての授業で実施されました。

また、今年度より実施しましたWebによる調査方式はWebの対象科目のうち学生からの回答があった科目は全体の36.1%でした。

本調査の目的は寄せられた評価や意見をもとに、授業担当者が次年度以降の授業内容や授業方法の改善に取り組むことや、授業環境について組織的な改善に結びつけることです。(各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「各学部のFD活動」をご覧ください。)

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◆「学生による授業に関する調査」(秋学期)

実施日：2012年12月6日(木)～12日(水)

[予備日：12月13日(木)～19日(水)]

※実施要領・実施科目などの詳細につきましては、11月中旬に各授業担当者宛にご連絡いたします。

高等教育推進センターニュースレター

2012年11月00日

発行：関西学院大学高等教育推進センター

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL: 0798-54-7420

FAX: 0798-54-7421

<http://www.kwansei.ac.jp/cephe/index.html>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せ下さい。寄稿も歓迎致します。
✉ HighEdu@kwanse.ac.jp